

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3771400284
法人名	悠悠有限会社
事業所名	グループホーム悠悠不動の滝
所在地	香川県高松市塩江町安原上東203番地1 (電話) 087-840-6155
評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成19年6月14日

【情報提供票より】 (平成19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 14年 5月 10日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 16人
職員数	13人 常勤 10人、非常勤 3人、常勤換算 12.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1～2階部分
------	---------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,500円	その他の経費(月額)	7,500円+実費	
敷金	有()円	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	400円
	夕食	450円	おやつ	100円
	または1日当たり 1,200円			

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	16名	男性	6名	女性	10名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	8名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 82.8歳	最低	71歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	塩江病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高松市の郊外で、大変自然に恵まれた環境であり、近くに塩江の名勝「不動の滝」があり、静かな立地である。ログハウスを改築して造られた建物は、利用者が生活しやすいよう工夫がなされており、生活感にあふれたものとなっている。利用者は、他の利用者や職員との会話を楽しみ、生き生きと生活されている様子がうかがえる。職員は、利用者一人ひとりによく言葉かけを行い、日々の様子を把握し、その方に合った役割を見出して、支援を行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価での要改善点やアドバイスがあったことについては、職員同士で話し合い、改善に努めている。前回の改善項目である洗剤の管理方法については、さっそく職員間で話し合い、改善が行われていた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価項目の趣旨をよく理解し、職員全体で質の向上に向けた取り組みがなされている。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回、運営推進会議を実施している。討議内容は、グループホームの概要と今後の活動、地域の行事などに関する意見交換となっている。地域の行事には積極的に参加をする等、交流に努めている。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>年4回、季節ごとにホーム便りを発行し、全体の様子を伝えるとともに、行事に合わせて家族会を実施している。また、面会時や電話連絡で、日頃から状況報告を行っている。利用者の要望もきちんと記録に残し、整理しており、運営への反映もできている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>随時、地域の方の協力が得られるよう、働きかけている。行事に地域の方々を案内したり、小学校との交流として、収穫祭や相撲大会への出席等を行っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「や」優しい心で 「さ」さわやかな笑顔 「し」信頼関係を大切に 「い」一緒に楽しくという理念のもと、地域の方々との交流も大切にして、理念の実現に向けた取り組みを行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングに理念を掲げ、職員に対しては、朝のミーティング等で、理念に照らし合わせた申し合わせを行っている。地域に向けては、ホーム便りでその基本的な考えを伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	随時、地域の方の協力が得られるよう、働きかけている。行事に地域の方々を案内したり、小学校との交流として、収穫祭や相撲大会への出席等を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価での要改善点やアドバイスがあったことについては、職員同士で話し合い、改善に努めている。前回の改善項目である洗剤の管理方法については、さっそく職員間で話し合い、改善が行われていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表、自治会長、婦人会長、民生委員の代表者や地域包括支援センターの職員に委員として参加いただき、2か月に1回、会議を行っている。	○	今後も、運営推進会議を継続して実施して欲しい。その際には、できるだけ多くの委員の方に参加いただけるよう働きかけを行うとともに、目的や議題を明確にして、お互いの理解がより深まることを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム便りを持参するが、置かせてもらえない現状がある。行事の参加等を働きかけていきたいと考えている。	○	市町の考えもあるが、公的介護保険の保険者である市町と連携をしていくことは、お互いにとって大切であることを確認し、行事の案内等を通して、担当者にも事業所に足を運んでいただけるよう、今後の取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回、季節ごとにホーム便りを発行し、全体の様子を伝えるとともに、行事に合わせて、家族会を実施している。また、面会時や電話連絡で、日頃の状況について報告するようになっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、家族会などを通して、意見がいただけるよう働きかけている。また、利用者の要望は、きちんと記録にして整理しており、運営に反映させている。解決に向けての過程を記録していくと、なお良いと思われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、極力最小限に抑えるよう努力している。		


外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	第4水曜日をグループ内全体の職員の勉強会の日として、さまざまなテーマで研修を実施している。県の主催する認知症研修にも順次参加するとともに、研修報告書を記載し、職員にその内容を伝えている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の職員との交流が中心となっている。アドバイザーの立場の外部の方が、定期的に事業所を巡回し、具体的なサービスに関する相談に乗ってくれている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、必ず見学に来ていただくとともに、利用者が生活に慣れるまで関わりを密にし、家族にも電話連絡で様子を伝えている。外出や一時外泊なども取り入れている。一週間は介護計画を仮プランとし、1か月を目途に本プランを作成している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	コミュニケーションを大切にして、利用者から職員の知らないことを学ぶ機会が多くある。夜勤時などは、一対一でゆっくりと話ができ、お茶を飲みながら本音の話を伺うことがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族に意向を聞き、大切にしていることが続けられるよう支援をしている。困難な場合には、本人の状態にあわせて、代わりにできることを一緒に考えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からは面会時や電話連絡で意見を伺い、主治医からも計画作成に向けて意見を聞いている。計画作成時にはカンファレンスを開き、職員の意見を反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、見直しを実施している。状態の変化や、入院をして退院後の計画については、本人に合わせたケアができるよう計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が気兼ねなく面会に来られる環境を作り、希望があれば宿泊ができる準備をしている。医療面では、できるだけ入院が回避できるよう病院と協議し、早期退院の支援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、塩江病院から往診があるほか、必要に応じて、希望の病院への受診が可能である。協力医院は地元にしたいたの事業所の考えがあり、現在依頼しているところである。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた対応は、個別に相談を行い、できる限り希望に沿えるよう支援している。看護師1名の配置で、24時間の医療体制は難しく、現在は入院を勧める方もいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	プライバシー保護のマニュアルを作成し、適切に取り扱いができるようにしている。また、ケアの内容でも本人の尊厳を大切に、排泄の介助、入室の際のノック、個人の持ち物に関わるときの承諾等、配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあわせた支援ができている。金銭管理ができる方には自由にしてもらい、グループで体操やレクリエーションを行うときは強制せず、希望されない方へは別の関わりをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みや力を活かして、食事の準備や後片付けを行い、利用者と職員が一緒になって、食事と会話を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回ずつ入浴できるよう曜日を決めて、実施している。時間をある程度決めてはいるが、利用者の希望や、その時の気持ちを大切に、柔軟に対応している。入浴が楽しみで毎日入りたい人もおり、希望にあわせて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で役割や楽しみごとを見出し、カーテン開けやふきんかけ、お茶の準備、洗い物、掃き掃除など、一人ひとりにあわせた役割がある。外の花の植え替えや庭はきを、すすんでしてくれる入居者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの滝への散歩をはじめ、外に椅子とテーブルを並べて、お茶や食事をとったり、買物に行き、好きなものを自分で買う等の支援ができています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	普段は施錠はせず、玄関からの出入りが自由にできる。家族へはそのことを伝え、理解していただいている。2階への階段部分には簡易な柵を設置し、転落等の危険がないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回実施し、内1回は消防の協力を得て、実施している。近所の方にも呼びかけ、参加していただいている。以前、近くの川の増水で小学校へ避難したこともあり、有事の際の消防との協力体制はできている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立作成をしている。1日の食事は職員が把握し、食のすすまない方へは時間をかけて、声かけし、支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光や風を大切にして、居心地のいい空間ができている。トイレや廊下には竹炭を置き、臭いについての配慮が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれに好きな家具や大切にしてきた道具を居室に置き、利用者にとって居心地のよい環境がなされている。ベッドでなく、布団が使われている方もおり、自宅での生活習慣を崩さない配慮が見られる。		

※  は、重点項目。